

## 1. 評価結果概要表

作成日 2008年6月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0872200407
法人名	有限会社 エスエス住建
事業所名	グループホーム くぬぎの森
所在地 (電話番号)	茨城県鹿嶋市和825-2 (電話)0299-90-9900

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年5月14日	評価確定日	平成20年10月3日

## 【情報提供票より】(平成 20年 4月 30日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 13人, 非常勤 5人, 常勤換算 12.9人	

## (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	1階 建ての	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	12,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(期間3年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1000 円			

## (4)利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	7 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	66 歳	最高	98 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	大野診療所 ・ 鹿島病院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームはくぬぎの木に囲まれた季節感あふれる環境の中に建てられている。ホーム内の天窓からは明るい日差しが入り、温かみがあり、閉塞感が感じられない開放的なホームとなっている。季節の移り変わりが感じられる環境となっており、庭にある広い畑で野菜作りやウッドデッキで自由に散歩できたり、家族を招待してバーベキューを開催したりと敷地内を活用している。職員や管理者は共に意見を出しあい、同じ思い、同じ考えでケアの向上を目指しながら利用者と家族のように暮らせるように取り組んでいる。近隣住民との付き合いを大事にし、地域活動への参加や小学校との交流を図るなど、積極的に行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価であげられた、重度化してきている利用者の生活に、ホーム全体でこれまで、現在も試行錯誤しながら改善に向け、前向きな取り組みを怠っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価に対する意義を職員にきちんと伝え、職員も外部からの視点を大切に受け止めている。全員で自己評価に取り組み、日々の介護の見直しとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今年度の1回目の会議が終了されており、ホームの年間行事報告や災害時に関してホームと地域との協力に向けての取り組み方法などを議題に挙げ、サービスや運営に活かせるように取り組んでいる。今後も地域からの意見や要望などを積極的に取り入れていく方向である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には毎月1度、近況報告や健康状態の経過やホーム便りなどにて日々の様子がわかるように郵送で報告している。職員は家族が意見や苦情を随時言えるような雰囲気、環境を整えている。これまでに苦情はない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域社協の委員となり、地域活動への参加や小中学校の校外学習の場、ヘルパー2級の実習施設など、地域貢献に積極的である。ホームでとれた野菜など近隣の方におすそわけしたり、いただいたりと、身近な交流の機会が多々ある。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に溶け込めるように交流を深めながらホームを知ってもらうためにも、職員全体で考えた理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現に向けて管理者側からも問いかけながら理解に努めている。ミーティングなどで具体的な言葉にしながらか確認も行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域社協の委員に職員も一員となり、地域活動に出向き参加している。また、1年間かけて月1回小学校の総合学習の場ともなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は外部からの視点を重要視していることから、意義について十分に理解されていると感じる。自己評価は職員の意見を出し合い、リーダーがまとめ、管理者に報告し作成されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度1回目の推進会議が終了されており、会議録がメンバーに配布されている。ホームの年間行事や災害に関しての地域への協力についてを議題にあげている。		

茨城県 グループホームくぬぎの森

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市町村が窓口となっている、傾聴ボランティアの養成を受け入れている。市町村との連携をこれまでも継続しながら取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月の請求時に通信や金銭管理の詳細、つき1回の受診報告など郵送にて報告しており、面会時や支払いの際に口頭でも日々の様子を家族に伝えている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	気軽に話が出来る環境を整えながら、面会時にこまめに聞くようにしている。また、家族会開催時にも意見や要望についての声かけを行っている。相談窓口についての説明もされている。		今後、苦情があった場合には、解決責任者、苦情申請者へのフィードバックすることにも力を入れていくことを期待したい。
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	施設内での異動は行っていない。3年以上離職者もない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員の段階に合わせた研修への参加を実施しており、スキルアップに取り組んでいる。研修報告も行われており、ミーティング等で資料を添えながら他の職員にも伝え研修内容の共有を図っている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	県内外の勉強会などに参加し、情報交換をすることで交流の機会を持ち、ホームでのケア向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人にはホームの見学を必ずしてもらっている。職員が自宅に訪問し、顔見知りになり安心感が得られるように工夫をしている。併設のデイサービスを利用しながら馴染んでもらい入居へとなることが多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護している、されている、といったような考えは持たず、家庭的な雰囲気の中で、畑仕事や料理についてなど利用者からたくさん学ぶことができ、共に信頼関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報、本人との関わりの中からの思いを汲み取るように努めている。バリデーションケアの実施や言葉のみならず、表情や日々の様子からの把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望など聞き、カンファレンスにて担当が他職員の意見などを話し合いながら作成にあたっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間に応じた見直しを行っており、モニタリング用紙を活用しながら検討し、新しい計画作成に取り組んでいる。家族にも報告がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の送迎や家族の面会における送迎等実施している。デイサービス利用からのホーム入居、他のホームへの紹介なども行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に合わせて、かかりつけ医への受診が可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には終末期までのホームの指針を説明、同意を得ている。利用者の身体状況に応じて随時家族と話し合いをしながら進めている。協力医療機関のバックアップ体制も整っている。職員の終末期に関するケアへの不安がないようにアンケートを行い確認をとったり、マニュアルの作成もされてある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する同意書はきちんと記載されており、保管している。口頭にて家族にも説明をしている。職員は食事時のさりげない支援や居室入室の際のノックなど行っている様子が訪問時に窺えた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の決まりは特に定めておらず、一人ひとりの希望に添い、朝食をずらすなどのペースを大事にしながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食材を使用したり、買い物時に好物のものを購入、また、食事のときの会話も大切にすることで食事が楽しみの一つになるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や入浴への意思表示があるときはそれに沿い、随時可能であるが、重度化が進んできているためにやや職員中心になりがちになる。	○	管理者や職員は、利用者の希望に沿った入浴支援を行いたいとの思いからこれまで努力はしている。共に思いは同じであり、どうしたら良い結果になるか、どんな工夫が必要か今後も継続してこれまで以上に取り組んでいって欲しい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で掃除や畑仕事、調理への参加など、利用者が体で覚えている様々なことを、役割・楽しみごととして、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は日常的に行われており、季節ごとの花見や水族館などの外出を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前は車の往来が激しいために安全面を考慮し鍵をかけてはいるが、職員全体で好きなときに外に出られるような体制を整えている。玄関以外はオープンにしている。		今後は地域との連携を、近隣住民の協力を得ながら安心して安全に外出ができるようにこれからも取り組みを継続して欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火訓練や様々な場面を想定しての避難訓練は行われている。米は3箇所に備蓄、水はタンクに貯蔵するなど準備を現在も続けている。		災害時、地域を受け入れられるような支援体制や、地域からの協力も得られるような双方の関係作りを今後もさらに取り組まれることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定を月1回行っており、医師の指示の下、カロリー計算や水分摂取など、制限のある利用者に対して工夫をし実施されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に行き来できる広いウッドデッキで季節感を取り入れたり、天窓からの明かりなどで心地よく生活できるようになっている。また、随所に用意されているソファやベンチ、陽射しの強いときにはカーテンやよしず等で工夫されるなど、環境づくりに重視している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた馴染みのものを持ち込んでいただいたり、家族との思い出の品を大切にしたりなど、安心して居室で暮らせるように配慮している。		